

「救い出される主」

詩篇 34 篇 11～22 節(宣教要旨)

説教者 A. Na



イエス・キリストは、二千年程前、ろばに乗ってエルサレムに入城された。すべて聖書に従って、十字架までの歩みを進まれた。

私たち人間は、生まれながらに罪人だが、神は、私たちが罪による永遠の滅びから救い出してくださった。

イエス・キリストが受けられた御苦しみ、十字架の死と復活をおぼえるこの受難週を、皆さんはどのように歩まれますか。

【11～14節：礼拝とは…主を恐れること】

ダビデは、自らが経験した主の救いと、主に身を避ける者に与えられる幸いと安全、主を恐れる者には乏しいことがないこと、これらの教訓を次の世代へと語る。ダビデの息子ソロモンも「わが子よ」と語りかける(箴1:8, 3:1, 4:1等)。

神のことばを理解するために必要な知恵と訓戒、知識は主を恐れることによって得る(箴1:7)。

12節…幸せや喜びや楽しみはすべて、神から与えられる賜物である(伝3:13)。賜物として受け取る長寿とは、幸福な大いなる祝福だろう。

13節14節…主に与えられるいのちを喜び、主を恐れる者は、主の御前にふさわしい歩みをするべきである。しかし、人は救われてもなお罪の性質を持ち、主の御前にふさわしい歩みができない(ヤコブ3:5-10)。罪の力は大きく、人間は弱い。私たちに求められることは、主を恐れることである。

【15～18節：悪に敵対し、正しい者を救われる主】

主の目は、主の教えを喜び、昼も夜もその教えを口ずさみ(詩1:2)、主を恐れる者たちの上であり、主の耳は彼らの叫びや祈りに傾けられる。

16節…主の御顔を向けられることが、主のさばきとして語られている(レビ17:10, 20:3)。また、その人自身だけでなく、子孫も絶たれてし

まう(ヨブ18:17ff)。そのように、主は正しい者を受け入れられ、悪しき者を退け拒否される。

「苦しむ者」…15節の「正しい人たち」。彼らの叫びに耳を傾けられる主は、その叫びや痛みを知り、その声と祈りを聞いてくださる。

18節…自分にある罪を見つめ、その罪を悔い改めた者の近くに主はおられ、すべての苦難から救い出してくくださる。

【19～22節：信仰者にある苦しみ、救い出される主】

主は、正しい人、主を恐れる者の骨、そのからだ全体を確実に守られる。

イエス・キリストは十字架上で叫び、霊をお渡しになり(マタ27:50)…すでに死んでいたのに、脚を折られなかった。この時「主は彼の骨をことごとく守り その一つさえ折られることはない」(20)という聖書が成就した(ヨハ19:36)。

21節…悪はただ悪しき者を殺し滅ぼす。悪しき者は、彼自身の悪巧みや主のさばきによって滅びていく(詩9:15, 16)。

正しい人を憎む者は責めを負うが、主に身を避ける人はだれ一人として責めを負うことがない。主が、私たちのたましいを罪から救い出してく下さり、贖い出してく下さるからである。私たちは、主の御前に憩い、完全な平安を与えてくださる主に身を避ける者とされた。

しかし、正しい人にも苦しみが多くある(19)。主を恐れる信仰者でも、世にあって苦難があるが、主はすでに世に勝利され、私たちは主にあって平安を得る(ヨハネ16:33)。パウロも「主は試練からの脱出の道を備えてくださる」と励ましている(Ⅰコリ10:13)。

【結びに…】

今日も、主は私たちに招き、礼拝する者としてくださる。日々の歩みの中で、多くの苦難や悲しみがあり、また、憤りや苛立ちなどもある。しかし、完全に救いを成し遂げられ、今生きて働かれる主が、主を恐れる者とともにおられる。

悩み苦しむ時こそ、十字架の主を仰ぎ見て、主の救いと完全な守り、その平安に憩わせていただきたい。